



▲明善小中の皆さんの演奏に会場全体が盛り上がりました

全国から駆けつけたマニアの皆さんと



▲かわいい人形たちがお目見え



我が町松原のシンボル「からくり時計」の修復が完成し、10月24日(土)午前10時から、そのお披露目のイベントが行われました。前夜までの降雨が嘘のように晴れあがり、紅葉の木々に囲まれ、澄み切った晩秋の青空のもと、大勢の観客を迎えて、にぎやかな歓声と晴れがましい雰囲気になりました。

明善小の金管バンドと明善中の吹奏楽部の特別演奏で、野外の興奮もさらに高まります。さすが松都松本の両楽団、素晴らしい音色とリズムに、観客全員が酔いしれました。コロナ禍の中での集会とあって、検温と氏名・連絡先の記入をお願いするなど、対策にも十分配慮しました。



松原かわら版

世帯数 1,222 戸
人口 2,986 人
高齢化率(65歳以上) 28.3%
(令和 2 年 10 月 1 日現在)

人権講座

松本藩の百姓一揆

11月はアメリカの大統領選挙があり、選挙について色々と考える機会となりました。松本市は国政選挙の民主化を図った普通選挙運動発祥の地です。もともと明治期の松本は自由民権運動が盛んだったと言われています。県庁所在地が松本にならなかった原因には諸説ありますが、ときの明治政府が、そのことを嫌ったのも大きな要因の一つです。自由民権運動は松本で突如起こったのでしょ

うか。いや、どうもその機運や人々の気概は、江戸時代に起こった一揆からも伺えます。凶作が続くなか、収穫米の70%という重い年貢に苦しむ農民の代表として、貞享3年(1686年)多田加助らは松本藩への直訴を試みます。一時は1万人以上の賛同者が松本城を取り囲み、訴えは受け入れたかに見えたが、藩の策略でむなしく訴えは退けられ加助たちは処刑されてしまいました。



松本平のジオラマを使った説明



1俵に2斗5升入って納め、2斗5升が3斗5升で引き上げられた

その150年後にも赤みの騒動という大きな一揆が起こります。その時も凶作による飢饉がきっかけとなり、人々の気概は、江戸時代に起こった一揆からも伺えます。凶作が続くなか、収穫米の70%という重い年貢に苦しむ農民の代表として、貞享3年(1686年)多田加助らは松本藩への直訴を試みます。一時は1万人以上の賛同者が松本城を取り囲み、訴えは受け入れたかに見えたが、藩の策略でむなしく訴えは退けられ加助たちは処刑されてしまいました。

チューバーの姿も。その中のお一人は、この旅が累計229番目の探訪だとか。そんな達人には我が町のからくり時計の評価が気になるもの。恐る恐る印象を伺うと、なめらかで繊細な人形の動き、職人技のぬくもりのこもった機械式(ローテク)独特の味わい、さらに、バブル時代の気宇広大な威風に満ちた姿など、全国の数あるからくり時計のなかでも「かなりの出来栄」との評を頂きました。とりわけ、火災で失われたからくり時計が町会に住まうボランティア連の技術と熱意が結集して、20年余

の紆余曲折を経ながら、しだいに修復・完成へと動き出すという「物語」にこそ、一層のワクワク感が溢れるのだとか。全国には500を超えるからくり時計があるようですが(からくり時計@wiki)、多くのものが廃止ないし作動しない状態になっており、屋外型のタイプは、何よりも継続的なメンテナンスが最大のネック。修復費用の膨大さに再建をあきらめることが多いとも聞きます。幸い我が町には、自力で修復・管理できる優れたボランティア技能チームと、それを支える町民

の熱い思いがあります。大型のからくり時計の多くは大都市圏にあります。松本市郊外の小さな松原が、このように本格的なものを保有しているのは、全国的に大いに誇るべきことです。みなが同じ思いで仰ぎ楽しむことができる「ブレイメンの音楽隊」が、松原の心を一つにまとめるシンボルとして、いつまでも動き続けることを祈ります。(編集委員)

「松原モールからくり時計台」の完成当時以来の写真・資料などを探しています。公民館まで、情報をお寄せ下さい。

認知症講座

「父の介護から得たこと」

9月4日に八田桂子さんを講師に認知症講座「父の介護から得たこと」認知症の父と生きる」が行われました。当日は会場の松原地区公民館、ZOOMを利用したオンラインでの参加を合わせ、50名程が参加しました。

講師自身の介護体験を中心に、人間の記憶についてや社会の偏見、認知症患者を地域で見守ることの必要性など話していただきました。

私自身、実際に認知症を介護する方の思いや体験を初めて聞き、もし自分がそのような状況になった時には、どのようなにかかわってあげれば良いかや地域の支えが大切だということなど意識が変わったように思います。様々な場面において、前向きな理解や行動ができると思いえました。

(編集委員)



ウォーキングの秋 満喫してきましょう

10月30日に行われた「昇仙峡ウォーキング」に参加してきました。企画は、地区公民館と福祉ひろばの共催です。一週間前の天気予報では冷たい雨の予報でしたが、当日は晴れました。参加者全員の日頃の行いが良かったのでしょうか。参加者は私や職員を含め19名でした。全員体温チェックとマスク着用で、昇仙峡に向かってバスで出発しました。

昇仙峡口については道幅が狭くヘアピンカーブが多く狭いトンネルもあり、すれ違いは大変だと思いました。平日のため交通量が少なく幸いでした。紅葉を期待していましたが、今年はまだあまりよくありません。地球温暖化でしょうか。ウォーキング出発点は、ロープウェイ駐車場より、参加者の年齢を考慮して下りコースが設定されました。歩行距離は、約6キロ

メートルです。準備体操をしてから歩き出すと最初に手すりのついた段差の大きい石の階段がありました。登りコースでなく良かったと思います。ただ膝が心配でした。急な下りは遊歩道のみで、そのあとはリタイヤ設定場所までならかな下りでした。全員リタイヤせずに後半コースに進みました。後半コースは対岸の名前の付いた岩や石を眺めながらのなだらかな下りコースです。天気にも恵まれ気温もウォーキングに丁度良く快適でした。健脚の方が一名おられて20分も早く終着点につき皆の到着を待っていたそうです。歩数は約6500歩ほどでした。シャトレゼベルフォーレワイナリー見学では展望試飲コーナーに向かいましたが今日のウォーキングコースよりきつい登りがあり諦めて下の試飲コーナーで試飲する方もいました。試飲の後には好みのワインをお土産に帰路につきました。

(編集委員)



出発前の集合写真



健脚のメンバーが揃いました



10月21日には蓼科湖ウォーキングを楽しんできました！

コラム

私事ですが、昔ある丁型交差点にて一時停止違反で警察官につかまり、止まった、止まらなかったと30分ほど押し問答を繰り返した末に最後は切符を切られ、何とも納得が出来なかったということがありました。後々良く考えれば、あの時にドライブレコーダーを取り付けてあったら、それを双方で確認すれば自分でも納得できたのだと思います。違反をすれば、反則金に加え、ゴールド免許も取り消され、挙句の果てに自動車の任意保険料金も5千円ほど高くなり、大変な出費になります。

昨今、世間ではあおり運転が話題になっておりますが、皆様も他者の無理な割り込みや意図せぬ急ブレーキ、また、スーパーの駐車場等での当て逃げなどされた時に、ドライブレコーダーがあれば証拠になりますので、まだ未装着の方は、是非付けてみるというかと思います。

(編集委員)

レッツ手づくり みんなで手づくり大福パーティ

今回は買い出しから体験し、予算の中で上手な買い物ができました。手先が器用な子が多く、職員のお手本より上手に中身を包んでいました。



材料を吟味中



上手に包んでいます



職人のような仕上がりに！

大福の中身を用意しています